

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年8月8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204409		
法人名	有限会社 ピースフル		
事業所名	グループホーム すまいる		
所在地	広島市安佐南区相田5丁目5番9号-8 (電話) 082-972-3014		
自己評価作成日	平成29年7月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3470204409-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県広島市安芸区中野東4丁目11-13
訪問調査日	平成29年8月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

平成23年の開所時より会社理念の「安心・安全・楽しむ」を元にご利用者の皆様と楽しく日々の生活を送っています。事業所理念としては「認知症になられても大人として生活を」ができる空間作りを目指しております。派手さはありませんが「普通」の生活を送っていただけるようゲーム性の強いレクリエーションではなく、買い物、調理、お墓参り、映画鑑賞、野球観戦等々個々の生活歴から興味のある事を一緒に行なう事で自然と体が動く生活リハビリを中心に行なっています。そのため、遅番の職員をフリーにし、出たい時にでる。遊びたい時に遊ぶ等制限を出るだけ少なくできるように配置し、取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームすまいるは2ユニットで、開設して7年目を迎えている。ホームは家庭的な雰囲気の中で心豊かに生活できるように、一つの家庭の中で過ごしている様に自然体で振舞っている。ホームは住宅街の一角にあり、落ち着いた生活環境の中に位置している。住宅地にあるという利点を活かし、利用者は毎日の散歩や買い物の他、町の花見や展示会、集い、祭に職員と共に参加し地域住民との交流を深めている。管理者は職員が楽しんで働く事は、利用者の穏かな生活に繋がると考え、働きやすい環境の提供に努めている。職員は、行事（バーベキュー等）も自ら楽しいと思う内容を計画して実行し、家族・利用者・近隣の方達等からも大変好評で、年々参加者も増えている。職員は互いに協力的で、急な休みも取りやすく、仕事と家庭の両立が図られ、子育てや介護等の理由で退職する必要も無く、離職者が少なくなっている。

グループホーム すまいる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「大人として普通の生活」を目標とし食材の買い物、外出、調理等地域の中に出向いて行く等利用者の方の意欲が高まるよう支援しています。	会社理念「安全・安心・楽しむ」を玄関入口に掲示し、職員が出勤の際、目につく所に掲示してあり、日々取り組んでいる。会議の際にも理念について話し合う事もあり、理念を共有して実践に繋げるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	例えば散髪は地域的美容院に出向き髪を切る等出来る限り施設の中で用事を済ますのではなく地域資源を活用しています。また、地域行事にも参加し地域の中で認めていただけるよう努めています。	自治会に加入し、地域の行事(公民館での夏祭り・町民運動会・自治会のサロン・サロン体操教室)等には積極的に参加している。回覧板が回って来て地域の行事や様子が良く分かり交流出来ている。中学生の職場体験を受け入れ交流している。ホームの職員の知人の保育園児が面会に来られ利用者と楽しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	推進会議での報告や、民生委員の方と連携をとり認知症の啓発に取り組んでいます。また、不定期にはなりますが認知症サポーター養成講座にも参加させていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回開催しています。非常に活発な地域で推進会議内で意見を多く頂き質の向上につなげていけると同時に、地域行事や定期的に訪問していただき地域との連携がとて上手いき感謝しています。	2ヶ月に1回定期的に開催され、地域包括支援センター職員・自治会役員・民生委員・管理者・相談員・利用者・他事業所職員が参加している。利用者の状況、サービス提供報告、避難訓練、ヒヤリハット、事故報告等について報告をし、話し合いその場で出た意見を検討しサービス向上に活かしている。	運営推進会議の参加メンバーが固定化しているのので、今後地域の多くの方(小・中学校の先生・警察署・保育園・スーパーの店長等)に参加して頂けるように期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	積極的に意見交換を行なっている訳ではありませんが提出物や、質問等ある際は電話や郵送ではなく直接伺い話をし関係を築けるよう努めています。	地域包括支援センター職員の運営推進会議参加時に、ホームの状況報告を行うと共に、情報交換や意見交換をしている。何かあれば相談して適宜、助言や指導をしてもらっており連携が取れる様に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	17:30以降は職員が少なくなるため玄関の施錠を行ないませんが、日中は施錠せず自由に出入りできるような心がけています。個々の身体拘束も現在まで事例がなく拘束をしない介護を行なうよう努めています。	日中は玄関を施錠することなく解放している。「行動を制限しない」ケアを実践するべく、外に出るのを止めるのではなく一緒に行動し安全面に配慮している。「待って」などの言葉の拘束にも注意している。職員の研修を実施し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。庭は自由に出入り出来て、とまとやキュウリを栽培し季節の花を育てている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	インシデント委員会を設け定期的に検討し現状の把握に努めています。同時に職員員のストレスにも最善の注意を払い虐待事例に繋がらないよう話し、ストレスの軽減に努めています。		

グループホーム すまいる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度を利用されている方もおられ、外部研修にも不定期ながら参加できるよう配慮をしていますが、職員の入れ替わり等あり全職員周知にはまだいらず課題が残っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約等の際には十分に説明をさせていただきます。その際に一方的な話にならないよう意見等求めながらすすめています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご面会の際に意見交換をさせていただいたり電話等で話していますが明確な場を設けている訳ではないため今後検討が必要と思います。	「おたより」を作成し、施設での利用者の様子を写真にして担当職員がコメントを添えて、家族に状況報告をしている。利用者の少しの変化も早めに連絡し情報交換し意見を聞いている。面会時や行事等で家族と接する場合に、意見や要望等話し易い環境を作り聞く機会を設け、それらを検討し運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度運営会議を行ない代表者と各事業所の管理者で意見交換を行なう場を設けています。	管理者は職員が意見を言い易くなるような職場の雰囲気作りに努めている。毎日朝夕の申し送り時や日常業務の中で職員からの提案や意見を聞き、これらは会議で検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者と職員の直接的な意見交換の場は少ないと思われます。今年初めて職員アンケートを実施し、職場への要望等を代表者に挙げ検討しました。今後も継続的に行っていきたいと思っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修、勉強会等興味がある分野を各自で選び実施しています。今後計画的な職員のスキル向上の仕組み等を構築していく必要があると思っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	事業所単位で近隣他事業と人事交流や勉強会を行っています。今後系列施設内での人事交流も取り入れていきたいと思っています。		

グループホーム すまいる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に必ず事業所に来ていただくか、自宅等に出向きご本人、ご家族と話し合いを持ち、不安に思われる事、取り組みたい事を明確にし、事業所内で出来る事を一緒に検討し具体化出来るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に不安等抱えておられるご家族は多くおられるため、形式的な説明等にならないよう努め、同時に抱えておられる要望、不安を把握できるように心がけ話し合いを行なうように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人が思う必要なこと、ご家族が思う必要なこと、職員が思う必要なこと、には開きがある事が多いため職員が思う必要な事を押しつけるのではなくご本人、ご家族個別に話を伺いそれぞれ必要と思われる事を検討し実践できるよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	大人として生活できる環境作りを目指しています。入職時に利用者体験を行ない利用者の方の目線を理解してもらおうと同時にまず目上の人と言う意識を持つよう職員教育に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居をされる事により家族関係が再構築できるよう努めていく事も事業所の大切な役割と理解し、日々の活動を通しかつての姿を思い出していただけるようご面会の際等生活風景をご家族に報告させていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人、知人のご面会もあり、また以前より通っていた美容院に通ったりと出来る限り関係が切れぬよう努めています。また、お墓参りや、野球観戦、買い物等馴染みの場所への外出支援も行なっています。	近隣や他府県の知人や友人がホームを訪問して居室にて歓談している。以前から利用していた行きつけの美容院に行かれたり家族とお墓参りに出かけている。又、ドライブで以前住まわれていた町内を案内して頂きながら懐かしんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	人間関係を中心に検討を行ない、席や、アクティビティ等を行なっています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入居時からの関係作りが大切で退居後も尋ねて来ていただけるご家族もおられます。退居後も必要に応じて相談、紹介等を行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴や日々の関わりからアセスメントを行ない、カンファレンスで検討し行意向等を反映できるよう努めています。	日々の生活の中で利用者と目線を合わせ見守り・語りながら、言葉や表情、態度や行動から思いを感じ取るようにし本人本位に検討している。美術館や映画館・カラオケ・ボーリング等利用者からの個々の要望を聞き出かかっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に生活習慣のアセスメントを行ない、その人にあつたりズムで生活していただけるよう心がけています。起床、食事、入浴、、外出、消灯等個々で違う方もおられます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人記録やバイタルチェックを毎日記録し日々の状態把握に努めています。医療面に関しては必要に応じ医療ノートに記載し周知しやすいように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画作成時にカンファレンスを開催し検討しています。Dr、家族、外部専門職の出席は難しい場合が多く、検討課題ではありますが、事前に意見を聞き反映出来るよう努めています。	居室担当者からの聞き取り、日々の介護記録や会議での内容を基に、毎月モニタリングを実施している。介護計画作成時には、面談や電話などで本人や家族の意向を確認し、計画に反映させている。利用者が一人で出来る事、困っている事を把握し、状況に応じた介護計画を作成している。利用者の要望や状態の変化に応じてその都度の見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の状態は記録に記入していますが見直しの際は口頭での意見交換が多いため今後記録を活用する仕組みが必要と思っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	昔からの馴染みの店に通ってみたり、お墓参りに行ってみたりと状況に応じ柔軟に対応していきたいと思っていますが、日々生活していく中で気付かない事や、思い込みも出てくると思っています。事業所として常に大きな課題の一つととらえています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	例えば、普段あまり出歩かない方が好きな生花をする事で花を買いに出かける等、ご本人が自然と体が動く事は何かと日々検討しています。地域のお店を積極的に使わせていただき取り組んでいます。生活リハビリを重点に取り組んでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に医療機関を決めていく際に、今までのかかりつけ医、近郊の病院、お体の状態に合わせて往診等選んでいただきます。また、入居後も必要に応じ病院を変える事もあります。※遠方の病院の場合はご家族の協力を得ています。	本人・家族の希望を聞きながらかかりつけ医を決め、かかりつけ医と連携を取りながら、職員が1ヶ月に1回の頻度で受診に同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。専門医(皮膚科、眼科等)への受診は、家族に協力を依頼するが難しい場合には代わりに職員が同行している。	

グループホーム すまいる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療ノートを作成し訪問看護、往診、歯科等伝達漏れが出ないように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は極力お見舞いに行き、状態の把握に努めています。また、退院が近くなると相談員等と話し合いの場を持ちスムーズに帰って来られるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居前に話し合いを持ち説明をしております。また、状態の変化が起こった場合もご本人、ご家族の意向を聞き、医療機関と相談していきます。その際に他機関への紹介や、事業所で看取り等行なっていくかを話し合いの中で決めていきます。	入居時に終末期の対応についてを事業所のできる事を十分説明をしているが、重度化した場合は本人・家族の意向をその都度確認している。家族の見解がそれぞれ違うため、主治医・看護師・職員と協力しながら支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救命の講習は必要に応じ実施していますが、離職等の関係等徹底できていない面もあります。安心して生活していただけるための体制作りを再検討していきたいと思っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている。	年2回消防署立ち会いで消防訓練を実施しています。また、地域の避難訓練等にも参加させていただいておりますが、全職員周知出来ているか？不安材料もあるため訓練等継続的に行なっていきたいと思っています。	年2回消防訓練を実施し、うち1回は消防署立会いの下、避難訓練(通報、消火訓練、避難誘導)を実施している。消防訓練には自治会や家族も参加され職員と一緒に、消火器の使い方や誘導方法を練習している。実際の火災を想定した自主避難訓練、消火訓練を行っている。また、1回は夜間を想定した訓練を行っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は原則敬語を使い目上の人という意識を持ってもらえるよう指導しています。また、接遇委員会を不定期で開催し振り返りを行なっています。一緒に生活していく期間が長くなれば、不用意な発言に繋がる可能性もあるため日々気をつけております。	利用者の人格・人権を尊重し、居室に入る際には許可を得たり、トイレ誘導時に失礼のないような声かけをしたり等、お一人おひとりの人格を尊重し、専門職としての接遇が出来るよう対応している。	ホームページ、パンフレット等へ個人情報の保護に関する事業所の方針について掲載がないので、今後掲載される事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活リハビリの中から意欲の向上につなげていけるよう取り組み、また、日々の会話の中で指示的な言い方にならないよう指導し取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	事業所理念でもある大人としてを元に取り組んでいますが、日々無意識の中で職員都合が出てしまう事は常に想定されます。職員会議や、申し送り等で確認、振り返りを行ないながら取り組んでいます。		

グループホーム すまいる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している。	毎日服を着替えられる際にどの服を着るか極力選んでいただいています。職員の都合で介助等しやすい服装等ならないよう心がけています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日献立を考える際に利用者の方と一緒に考え嗜好を反映できるよう心がけています。また、強制ではなく好きな方には積極的に台所に立っていただいています。	食事のメニューを利用者と一緒に決めたり、参加できる作業は行ってもらっている。また盛り付け・配膳・下膳・後片づけ・台拭き等も出来る事は参加してもらい食事が楽しみなものになるよう心がけている。また役割を持つ事で、活気がもてるよう努力している。職員は利用者と同じテーブルで食事をしながらさりげなく介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、形態は個々に応じ変えています。食事、水分量も毎日記録を付け体調管理に努めています。食事バランスは栄養士がいないため系列施設の助言をもらう事はありますが、課題は残っており今後の検討材料と思っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎日の口腔ケアと必要に応じ訪問歯科に来ていただき口腔ケアに努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自尊心、羞恥心に配慮し個々の排泄パターンを把握し声かけ等支援しています。	排泄チェック表を作成し、お一人おひとりの現況、排泄パターンとサインを把握し、利用者の立場での言葉かけによりトイレでの排泄が実践できるように支援している。夜間帯も個々人のリズムに合わせた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘傾向の方には食事の工夫をしたり、動いていただくよう心がけています。必要に応じDrに相談し、お薬でのコントロールも行なう事もあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日午後から入浴時間を設けています。曜日の固定や回数等の制限は設けず入浴していただいています。自立度の高い方は夜間入浴を行なう事もあります。	基本は週2回ですが、希望があれば毎日入浴は出来る様にしている。入浴時間や回数は利用者の希望に応え、ゆったりゆっくりとした入浴時間となるように支援している。時にはシャワー浴や清拭・足浴の支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	フロアや居室等個々の習慣、性格に合わせ休息を取られています。日中は起きている時間、休む時間どちらにも偏らないよう必要にて声をかけさせていただく場合もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療機関からの指示やお薬手帳を参考にし必要な事は医療ノートに記載し必要に応じDr、訪問看護に相談しています。		

グループホーム すまいる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	理髪店をされていた方に職員の髭を剃っていただいたり、調理をされたり、馴染みの場所に出かけられたりと可能な範囲内で実施しています。また、Dr.、ご家族の許可のもと晩酌される方もおられます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	遅番職員をフリーとして配置し外出等すぐに動ける体制を作っています。集団で動くよりも個別で動く事に重点をおいています。日々の活動から近郊のお店等地域の方達の理解は得られてきていると思いますが、一緒に出かけるといった事例はまだありません。	日々の食材の買い物にスーパーに出かけたり、花見に造幣局や花緑公園に出かけている。又、個々の外出支援で野球観戦・花の展覧会・サーカス・カラオケ・ショッピングセンター・動物園・アクアス・宮島等に出かけている。自治会のサロンに出かけたり、サロン体操教室・町民運動会・公民館の夏祭りに出かけている。集団で外出するのではなく、個々の希望に沿っている為、個別対応が主になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	原則お金は金庫で預らせていただいておりますが、買い物時等支払いが可能な方はご自身で支払い出来るよう支援させていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望があればご家族に連絡させていただいております。盆、正月に事業所として一緒にお手紙を出す事がありますが、以外でもご希望があればお手紙等支援させていただきます。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	掲示物等は子供っぽい物はさけ一般家庭を意識し掲示しています。季節を感じられるよう、食事やお花等で工夫しております。ハード面に関してはご意見が出た際に検討し改善できる事はさせていただいております。	共有スペースでは、季節を感じる花や観葉植物を置き、常に清掃・空調の管理を行い、清潔で過ごしやすい環境を工夫している。テラスへ出られる大きな窓は、日差しが入り明るい。広く落ち着いたりリビングは、各人憩いの時間を楽しめる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	建物のスペース的に別に場所を確保する事は困難ですが食事の席や外出を一緒にしたりと工夫をしています。また、どちらかのお部屋で一緒に過ごされる事もあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に極力お家の物を持って来ていただくようお願いしています。入居後も危険性の低い物は制限を設けず落ち着ける空間が出来るよう心がけています。	入居時になじみの物(ベッド・筆筒・仏壇・衣装ケース・ペットの写真・家族の写真・装飾品・電子ピアノ)等を家族と相談し持ち込んでいる。また、入居後も本人が寝る以外の部屋だけになるのではなく、本人が落ち着ける部屋になれるように家族と相談し、環境作りを行っている。家族に本人の嗜好に合わせ、家電の持ち込みの協力もお願いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	日常の中で色々提案し、自然と役割が出来上がっていくよう支援しています。消極的な方にも一緒に行なう事によって興味等ある事を見つけて行っています。		

グループホーム すまいる

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム すまいる

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム すまいる

作成日 平成 29 年 8 月 9 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	推進会議に消防・警察、学校等の構成委員が入ることが望ましい。	推進会議に参加して頂く。	まずは、警察署に行き推進会議の趣旨を説明し参加要請を行う	3ヶ月
2	13	研修体系が不十分。	計画的に研修に参加出来るよう体系を作る。	現在各職員が研修を選んでいるが、管理職も振り分けを行い、羞恥できる体制を作る。	6ヶ月
3	36	パンフレットに個人情報保護、問い合わせ先の記載がない。	パンフレットに記載する。	早急にパンフレットに記載を行う。	1ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。